

実践的 ITS 研究小委員会の活動報告

小委員長：内山 久雄（東京理科大学）

(1)研究小委員会の設置目的

本研究小委員会は、平成 16 年度から 2 カ年に渡り土木学会技術推進機構に設置された「実践的 ITS 特別研究委員会」における研究内容の一層の充実を図るために、土木計画学研究委員会内に設置されたものである。具体的には、土木計画学研究委員会で実質的な研究を実施し特別研究委員会活動をサポートすること、成果をワンデーセミナーやシンポジウム等を通じて土木計画学研究委員会に還元することを活動目的としている。

(2)実践的 ITS 研究特別委員会の設立経緯

- 2003.2.10 第二期 ITS 研究小委員会のコアメンバーによる第三期方針の議論開始
- 2003.10.7 土木学会の技術推進機構における委託方法の打ち合わせ
- 2004.5.7 土木学会の技術推進機構における準備会発足
- 2004.5.25 土木計画学ワンデーセミナーによる第三期活動方針の公表
- 2004.6.9 実践部会の場所選定に関する本格的な調整開始
- 2004.9.16 準備会における公募内容の最終了承
- 2004.9.29 公募開始
- 2004.10.25 公募終了
- 2004.10.28 公募審査委員会開催と研究課題・テーマの確定
- 2004.11.1 採択課題・テーマに対する委託研究フレームのガイダンス（キックオフ）
- 2004.12 土木学会における委託契約完了

(3)研究組織

研究組織は実践的 ITS 特別研究委員会に準ずる。

委員長： 内山久雄 東京理科大学教授

S 部会（研究連携部会）

部会長： 家田 仁 東京大学教授

副部会長： 天野 肇 トヨタ自動車（株）IT・ITS 企画部

幹事： 浜岡秀勝 秋田大学助教授

清水哲夫 東京大学助教授

委員：産官学の 16 名（上記 4 名除く）

A 部会（実践研究部会）

A1 班（広島） 班長：藤原章正 広島大学教授

A2 班（秋田） 班長：清水浩志郎 秋田大学名誉教授

A3 班（北海道） 班長：田村 亨 室蘭工業大学教授

B 部会（重点研究部会）

B1 班（渋滞・サグ） 班長：赤羽弘和 千葉工業大学教授

	班長：宇野伸宏 京都大学助教授
B2 班（事故削減）	班長：山中英生 徳島大学教授
B3 班（物流）	班長：谷口栄一 京都大学教授
C 部会（萌芽研究部会）	
C1 班	小池則満 愛知工業大学講師
C2 班	松本修一 高知工科大学助手
C3 班	円山琢也 東京大学助手

(4)各研究フレームの内容（これまでの成果、今後の予定を含め）

①S 部会

以下の A～C の部会の成果や関連する ITS 技術開発の動向をモニタリングしながら、産官学の連携の下、ITS が今後向かうべき方向性や研究のあり方を議論し、今後の施策に対して具体的な提言を行うことを目的としている。

これまでに 3 回のミーティングを開催し、既に提言の中間報告をまとめ、本研究発表会のスペシャルセッションで公開している。平成 17 年 9 月の土木学会年次学術講演会の研究討論会を目途に確定作業を行う予定である。

②A 部会

より実践的な ITS の研究を指向し、3 カ所の具体的な地域において、基礎技術の開発だけでなく技術の実導入をリクワイアメントとした総合的研究を実施することを目的としている。具体の研究課題は以下の通りである。

- 1) 道路利用者の視点を考慮した道路情報システムに関する研究開発
- 2) スマート 2 マイル広島ー連続交差点区間の安全性改善に向けた ITS 技術の総合的適用
- 3) 道路環境対応型の道路マネジメントおよび安全・安心走行支援の実現に向けた研究開発

平成 16 年度は、各課題で多くのミーティングを開催し、技術研究に加えて実道展開のためのフレーム確立に関して多くの議論を行ってきた。平成 17 年度は社会実験等を活用して技術アイデアの実導入を目指して活動する予定である。

③B 部会

道路行政として重点的に取り組むべき技術課題を研究することを目的としている。具体の研究課題は以下の通りである。

- 1) 車両挙動の画像解析に基づく道路デザイン評価手法の構築
- 2) 車両挙動の微視的・時空間連続観測による隘路・錯綜現象の分析
- 3) 無信号交差点での出会い頭事故防止のための一時停止支援システム
- 4) 大都市における ITS を活用した物流マネジメントシステムの確立

④C 部会

若手研究者が今後施策として展開することが期待される研究課題を提案し、それを遂行するものである。3 テーマが採択され、鋭意研究を遂行している段階にある。

(5)今後の予定

実践的 ITS 特別研究委員会とともに平成 17 年度末をもって小委員会活動を解散する予定である。活動の締めくくりとして、平成 18 年春頃を目途にワンデーセミナーかシンポジウムの開催を申請したい。

(6)連絡先

浜岡 秀勝 秋田大学工学資源学部 hamaoka@ce.akita-u.ac.jp

清水 哲夫 東京大学大学院工学系研究科 sim@civil.t.u-tokyo.ac.jp